

## <ワン・ポイント・レクチャー> こども未来コース(基礎編)

### 第1回:子どもを躱けるとは？

“躱ける”というのは、決して保護者の言いなりになる、言いつけをしっかりと守る“良い子”にするために行うものではありません。その時々の子どもの能力に応じた形で保護者は“教え”、教えられたことを子どもは十分に理解して身につけるといいうプロセスを通して子どもが自立(自分の顕在的な能力だけではなく、まだ活用せずに眠っている潜在的能力をも活用)することができるようになるために行うものです。その結果、自分を傷つけたり、他人を害さないように振る舞えるようになります。

言うまでもありませんが、“躱を行う”時に双方が感情的になっているようでは、特に子どもは反発をするだけです。保護者はもちろんですが子どもも気持ちが落ち着いている状況の中で“躱ける(教え、学ぶ)”ことが大切です。ただ、残念ながら保護者は神様ではありませんので、保護者が子どもに求めること、つまり保護者の価値観や考え方が必ずしも正しいとは限りませんので、絶えず、子どもに求める内容が子どもにとって“最善の利益”をもたらすものであるかどうかを自らに問いかけながら行っていく必要があります。

このような日々の関わりを通して、子どもに対する信頼感や安心感を子どもが感じることができれば、人と関わることに對して“心地よさ”を感じるできるようになりますので、少なくとも“他害(他人の心身を傷つける)”行為をすることは決してありません。子どもにとって、言動のモデルは保護者であるため、子どもに“学び”を求めるのであれば、モデルとしての保護者こそが日々の言動に気を付けるように努めることが重要なんですね。いやはや、子どもを育てるということは、実に面倒臭いことですね。